

北海道における感染症発生動向調査について（2022 年）

Report of Infectious Diseases Surveillance in Hokkaido, 2022

田宮 和真 川代 愛梨 高津 祐太 山口 宏樹

Kazuma TAMIYA, Airi KAWASHIRO, Yuta TAKATSU and Hiroki YAMAGUCHI

Key words : infectious diseases surveillance (感染症発生動向調査) ; Hokkaido infectious diseases surveillance center (北海道感染症情報センター) ; national epidemiological surveillance of infectious disease (NESID、感染症サーベイランスシステム)

わが国では感染症の発生及びまん延を防止するため、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法、以下「法」とする）に基づく施策として、感染症発生動向調査が行われている¹⁾。本調査事業で

表 1-1 感染症発生動向調査の対象疾患数

(2022 年 12 月末時点)

	疾患数
一類感染症	7
二類感染症	7
三類感染症	5
四類感染症	44
五類感染症（全数把握）	24
五類感染症（定点把握）	25
新型インフルエンザ等感染症	4
指定感染症及び新感染症	0
合計	116

表 1-2 感染症発生動向調査の定点数

(2022 年 12 月末時点)

	対象疾患数	道内の定点数
(週単位)		
インフルエンザ定点	1	226
小児科定点	10	137
眼科定点	2	29
基幹定点	5	22
(月単位)		
性感染症定点	4	42
基幹定点	3	22
合計	25	478

は、患者を診断したすべての医師が届出を行う全数把握疾患（一～四類感染症、五類感染症の一部、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症）及び指定された医療機関のみが届出を行う定点把握疾患（五類感染症の一部）を対象としている（表 1-1、1-2）。2020 年 2 月 3 日から「新型コロナウイルス感染症」が指定感染症（全数把握疾患）に追加され²⁾、2021 年 2 月 13 日から「新型コロナウイルス感染症」が法第 6 条第 7 項の「新型インフルエンザ等感染症」に位置づけられた³⁾。その後、2022 年 9 月 26 日から全数届出の見直しにより発生届の対象範囲が（ア）65 歳以上の者、（イ）入院を要する者、（ウ）重症化リスクがあり、かつ、新型コロナ治療薬の投与が必要な者または重症化リスクがあり、かつ、新型コロナ罹患により新たに酸素投与が必要な者、（エ）妊婦からなる 4 類型に限定され⁴⁾、2023 年 5 月 8 日には五類感染症定点把握疾患に指定された⁵⁾。なお、新型コロナウイルス感染症については、2020 年 5 月 29 日の「新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）」導入以降、NESID に登録されている届出数と実際の発生数に乖離が生じているため、本稿では新型コロナウイルス感染症の報告を見送ることとした。

本稿では、新型コロナウイルス感染症以外の 2022 年の北海道における全数及び定点把握疾患の患者届出状況をまとめたので報告する。

方 法

対象疾患の感染症情報は、感染症サーベイランスシステム（NESID）の中央データベースに登録されたデータを使用した。2022 年の全数把握疾患は 2022 年第 1～52 週に診断された患者等の届出、定点把握疾患（週報）は 2022 年第 1～52 週の報告、定点把握疾患（月報）は 2022 年 1～12 月の報告データを用いた。また、比較対象とした 2021

年以前のデータについては、全数把握疾患は2019年第1週～2021年第52週に診断された患者等の届出、定点把握疾患（週報）は2013年第1週～2021年第52週の報告、定点把握疾患（月報）は2019年1月～2021年12月の報告データを用いた。

集計・解析にはMicrosoft Excel 2021に加えて、Microsoft Accessを基に当所で構築した「北海道感染症情報システム」及び「感染症データ分析ツール」⁶⁾を使用した。

結 果

1. 全数把握疾患

全数把握疾患の届出状況を表2-1に示した。また、個別の疾患について年齢構成等の詳細を表2-2～2-18に示した。なお、2022年に診断された届出が20に満たない疾患については紙面の都合上、表の掲載を省略した。詳細なデータについては、当所ホームページ⁷⁾を参照されたい。

表2-1 全数把握疾患 届出数

分類	疾患名	2019年	2020年	2021年	2022年
二類	結核	668	637	614	529
三類	細菌性赤痢	8	4		
	腸チフス	2			
	腸管出血性大腸菌感染症	280	160	241	168
四類	E型肝炎	69	83	61	44
	A型肝炎	6	4	2	3
	エキノкокクス症	29	24	30	23
	オウム病				1
	回帰熱	7	15	10	25
	デング熱	11			1
	マラリア			3	
	ライム病	13	24	20	9
	レジオネラ症	65	44	53	58
五類	アメーバ赤痢	20	18	15	13
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	5	4	4	6
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	60	75	85	117
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	1		1	1
	急性脳炎*	33	14	9	9
	クリプトスポリジウム症	7	4	1	3
	クロイツフェルト・ヤコブ病	8	6	10	6
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	39	33	24	22
	後天性免疫不全症候群	39	22	26	24
	ジアルジア症	3		1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	27	7	5	11
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2	1		
	侵襲性肺炎球菌感染症	134	53	59	56
	水痘（入院例に限る）	21	17	15	20
	梅毒	135	122	169	599
	播種性クリプトコックス症	2	2	4	3
	破傷風	9	3	11	3
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		3	1	
	百日咳	554	148	26	24
	風しん	43	2		1
	麻疹	6			1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	5	1		

*：ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

表 2-2 結核患者 診断別、年齢階級別、感染地域別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
類型	患者	208	176	384	212	171	383	190	151	341	142	136	278
	死亡者	1		1	1	2	3				1	2	3
	疑似症患者	12	6	18	4	4	8	4	4	8	3	1	4
	無症状病原体保有者	114	151	265	93	150	243	112	153	265	91	153	244
	合 計	335	333	668	310	327	637	306	308	614	237	292	529
年齢階級	0 歳	4	4	8	3	4	7	4	2	6	2	3	5
	1～9 歳	2	3	5	1	2	3				2	2	4
	10～19 歳	4	2	6	1	4	5		2	2	1	1	2
	20～29 歳	14	23	37	12	22	34	10	18	28	13	16	29
	30～39 歳	17	19	36	12	23	35	13	8	21	3	20	23
	40～49 歳	29	29	58	19	23	42	12	12	24	8	31	39
	50～59 歳	28	30	58	21	40	61	27	34	61	13	23	36
	60～69 歳	48	34	82	43	39	82	42	43	85	33	41	74
	70 歳以上	189	189	378	198	170	368	198	189	387	162	155	317
感染地域 (推定または確定)	日本国内	245	245	490	190	208	398	206	202	408	137	178	315
	日本国外	11	8	19	4	8	12	8	5	13	5	12	17
	不明	79	80	159	116	111	227	92	101	193	95	102	197

表 2-3 腸管出血性大腸菌感染症 診断別、年齢階級別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
類型	患者	93	96	189	50	44	94	48	72	120	52	53	105
	無症状病原体保有者	39	52	91	26	40	66	45	76	121	20	43	63
	合 計	132	148	280	76	84	160	93	148	241	72	96	168
年齢階級	0 歳				1	2	3		1	1	2		2
	1～9 歳	55	48	103	23	11	34	29	32	61	17	20	37
	10～19 歳	19	13	32	8	7	15	19	7	26	11	9	20
	20～29 歳	18	16	34	12	11	23	7	25	32	11	16	27
	30～39 歳	14	12	26	6	11	17	9	20	29	10	10	20
	40～49 歳	10	16	26	7	11	18	7	21	28	10	11	21
	50～59 歳	1	18	19	4	11	15	6	11	17	5	14	19
	60～69 歳	6	11	17	3	7	10	7	12	19	3	10	13
	70 歳以上	9	14	23	12	13	25	9	19	28	3	6	9

表 2-4 O 血清群別報告数 (2022 年)

O 血清群	報告数	
	患者	無症状病原体保有者
6	1	
8		2
20		1
26	8	
55		3
91	1	3
103	2	2
111	11	2
115		2
121		1
127		1
128		4
136		1
142		1
145		1
146		1
152	1	
157	72	9
168		1
不明	9	28
合 計	105	63

表 2-5 溶血性尿毒症症候群発症例 (2022 年)

性別	年齢	O 血清群	毒素型
男	9	157	VT1VT2
女	6	不明	不明

表 2-6 E型肝炎 診断別報告数、年齢階級別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
類型	患者	44	15	59	62	12	74	42	10	52	26	11	37
	無症状病原体保有者	8	2	10	8	1	9	7	2	9	5	2	7
	合 計	52	17	69	70	13	83	49	12	61	31	13	44
年齢階級	0 歳												
	1～9 歳												
	10～19 歳	1		1									
	20～29 歳	2		2	4		4		1	1		2	2
	30～39 歳	4	4	8	4	1	5	4	2	6	3		3
	40～49 歳	10	3	13	11	1	12	10	4	14	2	2	4
	50～59 歳	14	3	17	13	2	15	10		10	7	3	10
	60～69 歳	10	4	14	26	4	30	11	2	13	10	2	12
	70 歳以上	11	3	14	12	5	17	14	3	17	9	4	13
	献血で判明と記載があったもの	2	1	3	3	1	4	2	1	3	2	1	3

表 2-7 エキノコックス症 診断別、年齢階級別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
類型	患者	12	13	25	10	10	20	11	16	27	7	15	22
	無症状病原体保有者	3	1	4	2	2	4		3	3	1		1
	合 計	15	14	29	12	12	24	11	19	30	8	15	23
年齢階級	0 歳												
	1～9 歳												
	10～19 歳												
	20～29 歳	2		2				1		1		1	1
	30～39 歳	1	1	2	2		2		1	1	2		2
	40～49 歳	2		2		1	1	3	2	5	3	1	4
	50～59 歳	2		2	1	2	3		2	2		3	3
	60～69 歳	2	3	5	3	3	6	1	5	6		2	2
	70 歳以上	6	10	16	6	6	12	6	9	15	3	8	11

表 2-8 回帰熱 診断別、年齢階級別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
類型	患者	6	1	7	9	6	15	8	1	9	12	13	25
	無症状病原体保有者								1	1			
	合 計	6	1	7	9	6	15	8	2	10	12	13	25
年齢階級	0 歳												
	1～9 歳												
	10～19 歳												
	20～29 歳	1	1	2		1	1	1		1	1		1
	30～39 歳	2		2				3	1	4	1	4	5
	40～49 歳	2		2	2		2	1	1	2	1	2	3
	50～59 歳				2	1	3	1		1	3	3	6
	60～69 歳				3	1	4	1		1	3	2	5
	70 歳以上	1		1	2	3	5	1		1	3	2	5

表 2-9 レジオネラ症 病型別、年齢階級別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
病型	肺炎型	49	11	60	34	6	40	35	13	48	45	9	54
	ポンティアック熱型	3	2	5	3		3	5		5	3		3
	無症状病原体保有者				1		1					1	1
	合 計	52	13	65	38	6	44	40	13	53	48	10	58
年齢階級	0 歳												
	1～9 歳												
	10～19 歳												
	20～29 歳							1		1			
	30～39 歳	2		2									
	40～49 歳	4		4	1		1	4	1	5	4		4
	50～59 歳	7	1	8	8		8	10	1	11	9	1	10
	60～69 歳	10	2	12	13	1	14	10	3	13	16	1	17
	70 歳以上	29	10	39	16	5	21	15	8	23	19	8	27

表 2-10 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年齢階級別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
類型	患者	45	15	60	41	34	75	45	40	85	54	63	117
年齢階級	0 歳										1		1
	1～9 歳												
	10～19 歳							1		1			
	20～29 歳	1		1					1	1	1	2	3
	30～39 歳					1	1		2	2	1	1	2
	40～49 歳	2	1	3	1	2	3	2		2		5	5
	50～59 歳	3	1	4	1	1	2	3	1	4	3	4	7
	60～69 歳	7	2	9	6	2	8	8	7	15	4	4	8
	70 歳以上	32	11	43	33	28	61	31	29	60	44	47	91

表 2-11 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
病原体報告数（2022 年）

病原体	報告数
<i>Klebsiella</i> 属	65
<i>Enterobacter</i> 属	27
<i>Escherichia</i> 属	12
<i>Citrobacter</i> 属	4
<i>Serratia</i> 属	4
その他	4
不明	1

表 2-12 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 年齢階級別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
類型	患者	17	22	39	18	13	31	12	11	23	7	15	22
	感染症死亡者の死体				2		2	1		1			
	合 計	17	22	39	20	13	33	13	11	24	7	15	22
年齢階級	0 歳										1		1
	1～9 歳								1	1			
	10～19 歳												
	20～29 歳		1	1									
	30～39 歳												
	40～49 歳							1		1		1	1
	50～59 歳	2	4	6	3	1	4	1		1		4	4
	60～69 歳	4	2	6	7	1	8	2	3	5	2	2	4
	70 歳以上	11	15	26	10	11	21	9	7	16	4	8	12

表 2-13 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 血清群別報告数

血清群	2019 年	2020 年*	2021 年	2022 年
A	20	9	9	8
B	4	5	3	6
C	1		1	
D			1	
G	11	14	9	5
不明	3	6	1	3

*：1つの届出に対して複数の血清群の重複を含む

表 2-14 後天性免疫不全症候群 病名別、年齢階級別、感染地域別、国籍別、感染経路別報告数

病名		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
病名	無症候性キャリア	23		23	16		16	18		18	17		17
	AIDS	11	1	12	4	1	5	8		8	7		7
	その他	4		4	1		1						
	合 計	38	1	39	21	1	22	26	0	26	24	0	24
年齢階級	0 歳												
	1～9 歳												
	10～19 歳	1		1									
	20～29 歳	14	1	15	5		5	5		5	3		3
	30～39 歳	10		10	5		5	11		11	13		13
	40～49 歳	12		12	8		8	8		8	7		7
	50～59 歳				2	1	3	1		1	1		1
	60～69 歳	1		1	1		1	1		1			
感染地域 (推定または確定)	日本国内	33		33	15		15	20		20	20		20
	日本国外	3	1	4		1	1				1		1
	不明	2		2	6		6	6		6	3		3
国籍	日本	35	1	36	20		20	23		23	22		22
	その他	2		2	1	1	2	2		2	2		2
	不明	1		1				1		1			
感染経路 (推定または確定)	性行為感染（同性間）	27		27	14		14	12		12	18		18
	性行為感染（異性間）	5	1	6	3	1	4	5		5	2		2
	性行為感染（同性間、異性間）							1		1			
	静注薬物使用	1		1									
	不明	5		5	4		4	8		8	4		4

表 2-15 侵襲性肺炎球菌感染症 年齢階級別報告数

類型	患者	2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
年齢階級	0 歳	5	5	10	4	1	5				1	1	2
	1～9 歳	13	3	16	5	1	6	4		4	8	5	13
	10～19 歳		1	1									
	20～29 歳							2		2			
	30～39 歳		1	1				2		2			
	40～49 歳		3	3		1	1	1		1	1	1	2
	50～59 歳	6	1	7	1	2	3	6		6	4	1	5
	60～69 歳	19	10	29	6	3	9	7	2	9	4	1	5
	70 歳以上	47	20	67	17	12	29	24	11	35	25	4	29

表 2-16 水痘（入院例に限る） 年齢階級別報告数

類型	患者	2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	0 歳	14	7	21	10	7	17	10	5	15	14	6	20
年齢階級	1～9 歳	1	1	2					1	1			
	10～19 歳		2	2		4	4		1	1	2		2
	20～29 歳	4		4	2		2	1	1	2	2	1	3
	30～39 歳	3		3	1		1	1		1	1	1	2
	40～49 歳				1		1	2	1	3			
	50～59 歳	1		1	1	1	2	1		1	1	1	2
	60～69 歳	2	3	5	2	1	3	3		3	3		3
	70 歳以上	3		3					1	1	1	1	2
			1	1	3	1	4	2		2	4	2	6

表 2-17 梅毒 病型別、年齢階級別、感染経路別報告数

		2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
病型	先天梅毒								1	1	1		1
	早期顕症梅毒（Ⅰ期）	35	8	43	37	9	46	51	11	62	252	85	337
	早期顕症梅毒（Ⅱ期）	26	16	42	18	19	37	23	23	46	84	83	167
	晩期顕症梅毒	3		3	3	1	4	1	3	4	6	3	9
	無症状病原体保有者	21	26	47	18	17	35	24	32	56	32	53	85
	合 計	85	50	135	76	46	122	99	70	169	375	224	599
年齢階級	0 歳								1	1	1		1
	1～9 歳												
	10～19 歳	1	5	6	2	3	5	1	8	9	7	31	38
	20～29 歳	30	26	56	26	29	55	27	31	58	87	108	195
	30～39 歳	21	7	28	15	4	19	23	13	36	95	45	140
	40～49 歳	15	2	17	12	6	18	31	4	35	103	21	124
	50～59 歳	11		11	12		12	11	3	14	57	10	67
	60～69 歳	3	2	5	4	1	5	6		6	20	2	22
	70 歳以上	4	8	12	5	3	8		10	10	5	7	12
感染経路 (推定または確定、 重複を含む)	性行為感染（同性間）	14	1	15	10		10	7	1	8	16	7	23
	性行為感染（異性間）	45	32	77	48	28	76	65	48	113	304	189	493
	性行為感染（同性間、異性間不明）	11	6	17	9	9	18	13	5	18	22	15	37
	母子感染								1	1	2		2
	輸血												
	針等の鋭利なものの刺入												
	不明	15	11	26	9	9	18	14	15	29	31	13	44

表 2-18 百日咳 年齢階級別報告数

類型	患者	2019 年			2020 年			2021 年			2022 年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	0 歳	234	320	554	63	85	148	5	21	26	6	18	24
年齢階級	1～9 歳	19	14	33	1	4	5		1	1			
	10～19 歳	71	69	140	30	30	60		2	2	2	3	5
	20～29 歳	93	114	207	17	20	37	1	4	5		3	3
	30～39 歳	12	43	55	4	11	15	1	7	8	2	2	4
	40～49 歳	10	30	40	3	7	10	1	5	6		5	5
	50～59 歳	15	27	42	2	11	13	1	1	2		2	2
	60～69 歳	7	5	12	4	1	5					1	1
	70 歳以上	5	9	14	1		1				1		1
		2	9	11	1	1	2	1	1	2	1	2	3

1) 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

2) 二類感染症

a. 結核

2022年は2021年と比べて85人減少となる529人の届出があった。2022年の届出の類型の内訳は、患者278人、死亡者3人、疑似症患者4人及び無症状病原体保有者244人であった(表2-2)。年齢は0~102歳の届出があり、30歳未満の若い世代での届出数が40人と全体の8%であった一方、60歳以上は391人が届出され、全体の74%を占めた。病型の内訳は、肺結核が最多となる210人、次いで結核性胸膜炎31人、粟粒結核6人と続いた。看護師、准看護師等の医療従事者や介護職員から53人の届出があった。感染地域(推定または確定)は日本国内が315人、国外が17人で、感染地域不明は197人で全体の37%であった。感染地域(推定または確定)の届出のうち、国外の割合は全年代では5%に留まった一方で、30歳未満では37%を占めた。

3) 三類感染症

a. 腸管出血性大腸菌感染症

2022年は2021年と比べて73人減少となる168人の届出があった。2022年の届出の類型の内訳は、患者105人及び無症状病原体保有者63人であった(表2-3)。年齢は0~85歳の届出があり、0~9歳が39人と全体の23%を占めた。O血清群別の届出数では、O157が最も多く81人(患者72人、無症状病原体保有者9人)であった(表2-4)。重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群の患者は2人の届出があり、有症状者の1.9%で見られた(表2-5)。

4) 四類感染症

a. E型肝炎

2022年は44人の届出があった。2022年の届出の類型の内訳は、患者37人及び無症状病原体保有者7人であった(表2-6)。性別は男性31人、女性13人であり、男性の届出が女性の2.4倍であった。年齢は21~84歳の届出があり、50歳以上が35人と全体の80%を占めた。感染経路(推定または確定)は、焼き肉やレバーの喫食などの経口感染が34人、不明が10人であった。また、献血時の検査で罹患が判明した3人の届出があった。E型肝炎の病原体であるE型肝炎ウイルスはG1~G4まで4つの遺伝子型を有している⁸⁾。2019~2022年において遺伝子型の記載があった発生届を抽出したところ、G3で28人、G4で6人の届出があった。2022年にはG3で4人、G4で1人の届出があった。

b. A型肝炎

2022年は3人の届出があった。感染地域(推定または確定)は日本国外(パキスタン)1人、国内1人及び不明1人であった。

c. エキノコックス症

2022年は23人の届出があった。2022年の届出の類型の内訳は、患者22人及び無症状病原体保有者1人であった(表2-7)。年齢は28~91歳の届出があり、70歳以上の届出が11人と、全体の48%を占めた。病型はすべて多包条

虫であった。感染地域(推定または確定)は北海道19人及び不明4人であった。なお、2022年の日本国内における届出は28人であった。

d. オウム病

2022年は北海道で2009年以来となる届出があった。年代は70歳以上、性別は男性、推定感染地域は北海道で、鳩の飼育歴があった。

e. 回帰熱

2022年は2021年と比べて15人増加となる25人の届出があった。年齢は25~82歳の届出があり、特に30代から70歳以上まで幅広い年齢階級から複数届出された(表2-8)。また、感染地域(推定または確定)はすべて北海道であった。

f. デング熱

2022年は北海道で2019年以来となる届出があった。年代は40代、性別は男性、推定感染地域は日本国外(ベトナム)であった。

g. ライム病

2022年は2021年と比べて11人減少となる9人の届出があった。年齢は34~82歳であった。

h. レジオネラ症

2022年は58人の届出があった。性別は男性48人、女性10人と、男性の届出が女性の4.8倍であった(表2-9)。年齢は40~97歳で届出があり、60歳以上が44人と全体の76%を占めた。病型の内訳は重篤な症状を呈する肺炎型が54人、ポンティアック熱型が3人及び無症状病原体保有者1人であった。

5) 五類感染症

a. アメーバ赤痢

2022年は13人の届出があった。性別は男性12人、女性1人と、男性の届出が大部分を占めた。年齢は42~71歳と、中高年に集中していた。感染地域(推定または確定)は日本国外(タイ)2人、国内6人及び不明5人であった。

b. ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)

2022年は病原体がB型肝炎ウイルスの届出が4人、ヒトヘルペスウイルス4型の届出が2人の計6人の届出があった。B型肝炎4人はすべて20代で、ワクチン接種歴は未接種2人及び不明2人であった。B型肝炎ワクチンは2016年10月1日から定期接種となり、対象は2016年4月1日以降に生まれた0歳児とされている⁹⁾。

c. カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

2022年は2021年と比べて32人増加となる117人の届出があった。年齢は0~103歳で届出があり、70歳以上が91人と、全体の78%を占めた(表2-10)。病原体は*Klebsiella*属65人、*Enterobacter*属27人、*Escherichia*属12人、*Citrobacter*属4人、*Serratia*属4人、その他4人及び病原体不明1人であった(表2-11)。117人すべての届出で90日以内の海外渡航歴はなかった。症状は尿路感染症が最多となる50人、次いで肺炎21人、胆管炎12人及び菌血症12人と続いた(図1-1)。

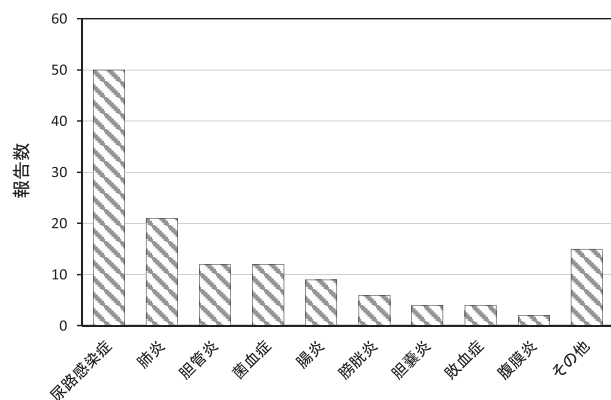


図 1-1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の主な症状 (2022, n = 117, 症状は重複あり)

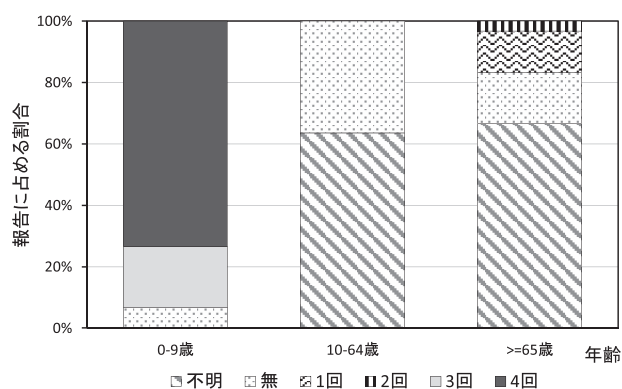


図 1-2 2022 年侵襲性肺炎球菌感染症の年代別ワクチン接種歴 (n = 56)

d. 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）

2022 年は病原体不明である 5 歳未満女性 1 人の届出があった。

e. 急性脳炎

2022 年は 9 人の届出があった。このうち 10 歳未満の届出が 6 人であった。病型の内訳は新型コロナウイルス 2 人、麻疹ウイルス 1 人、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 人、その他 1 人及び病原体不明 4 人であった。

f. クリプトスポリジウム症

2022 年は 20 代男性 2 人、40 代男性 1 人の計 3 人の届出があった。感染経路（推定または確定）はすべて牛からの感染であった。

g. クロイツフェルト・ヤコブ病

2022 年は 50 代 2 人、70 歳以上 4 人の計 6 人の届出があった。

h. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2022 年は 22 人の届出があった。年齢は 0～100 歳で届出があり、40 歳以上が 21 人届出された（表 2-12）。2022 年の病原体の血清群（重複を含む）は A 群が最多となる 8 人、次いで B 群 6 人、G 群 5 人と続いた（表 2-13）。

i. 後天性免疫不全症候群

2022 年は 24 人の届出があり、すべて男性であった。年齢は 21～52 歳で届出があり、30～49 歳が 20 人と全体の 83% を占めた（表 2-14）。病名の内訳は無症候性キャリア 17 人、AIDS 7 人であった。感染経路（推定または確定）は同性間性行為感染が最多となる 18 人であった。

j. ジアルジア症

2022 年は 70 歳以上男性 1 人の届出があった。

k. 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2022 年は 11 人の届出があった。年齢は 45～86 歳で届出があった。2013 年 4 月より、乳幼児への Hib ワクチン定期接種が開始された¹⁰⁾。2022 年の届出は定期接種の対象となる年代から外れていたこともあり、ワクチン接種歴は未接種 3 人及び不明 8 人であった。

l. 侵襲性肺炎球菌感染症

2022 年は 56 人の届出があった（表 2-15）。2013 年 4 月

から小児へのワクチン定期接種が開始されたのに続き¹¹⁾、2014 年 10 月からは 65 歳以上の高齢者へのワクチン定期接種が開始された¹²⁾。10 歳未満の届出は 15 人のうち 14 人が 3 回以上のワクチン接種歴があったのに対して、65 歳以上の届出は 30 人のうち未接種 5 人及び不明 20 人であった（図 1-2）。

m. 水痘（入院例に限る）

2022 年は 20 人の届出があった。年齢は 2～91 歳で届出があった（表 2-16）。病型の内訳は病原体の検出や血清中 IgM 抗体の検出による検査診断例が 10 人、臨床診断例が 10 人であった。

n. 梅毒

2022 年は 599 人の届出があった。2021 年と比べて 430 人増となり、急激に届出数が増加した（表 2-17）。性別は男性 375 人、女性 224 人と、男性の届出が女性の 1.7 倍であった。年齢は 0～91 歳で届出があった。男性では 40 代の届出が最多となる 103 人の届出があり、女性では 20～39 歳の若い世代で多くの届出が見られ、153 人の届出があった。また、妊娠している女性の届出数も 2021 年の 5 人から、2022 年は 14 人へと増加した（図 1-3）。病型の内訳は先天梅毒 1 人、早期顕症梅毒（I 期）337 人、早期顕症梅毒（II 期）167 人、晩期顕症梅毒 9 人、無症状病原体保有

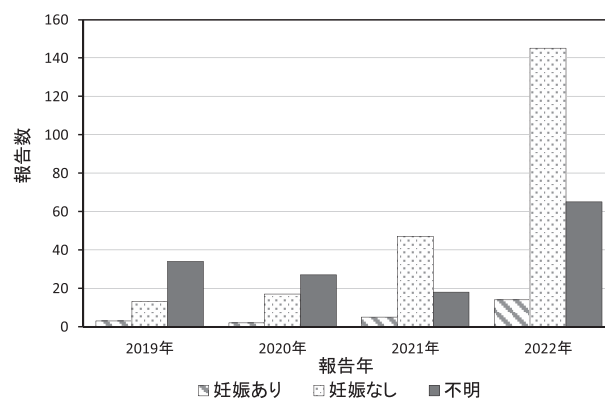


図 1-3 梅毒発生届の女性の妊娠の有無 (2019-2022, n = 390)

者85人であった。感染経路（推定または確定、重複を含む）は、性行為感染（異性間）が最多となる493人であった。

o. 播種性クリプトコックス症

2022年は70歳以上3人の届出があった。

p. 破傷風

2022年は3人の届出があった。2019～2022年のすべての届出が50歳以上であった。2022年の届出におけるワクチン接種歴は未接種2人及び不明1人であった。

q. 百日咳

2022年は24人の届出があった。20歳以上の届出が16人と、全体の67%を占めた（表2-18）。ワクチン接種歴は4回接種歴有り7人、1回接種歴有り1人、未接種1人及び不明15人であった。

r. 風しん

2022年は20代男性1人の届出があった。なお、同じく五類感染症に指定されている先天性風しん症候群については2022年の届出はなかった。

s. 麻しん

2022年は60代男性1人の届出があった。病型は修飾麻しん（検査診断例）であった。感染原因及び感染地域は不明であった。

2. 定点把握疾患（週報）

定点把握疾患（週報）の報告状況について、表3-1、表3-2、図2-1～図2-15に示した。

1) インフルエンザ

2022年の定点における年間報告数は1,289例であった（表3-1）。2020年（年間報告数：27,014例）以前の水準と比べると報告数は少なかったが、2021年（61例）からは大きく増加した。定点当たり週別報告数は、2021～2022シーズン（2021年第36週～2022年第35週）については、

流行入りの目安である1.00を超えることはなかった（表3-2）。一方、2022～2023シーズン（2022年第36週～）では第51週に1.76と流行入りの目安を上回り、その後第52週には2.88へと増加した（表3-2）。全国でも同様の報告数の増加傾向が確認された（図2-1）。

2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2022年の定点における年間報告数は3,624例と、2021年の6,633例から3,009例減少した（表3-1）。過去10年で見ると、2019年までは春及び冬の2つのピークを有する流行が周期的に繰り返されたのに対して、2020年以降は2020年第10週から報告数が激減しており、2022年も通年報告数が低い水準で推移して流行が確認されなかった（図2-2）。

3) RSウイルス感染症

2022年の定点における年間報告数は5,040例と、2021年の10,197例から5,157例減少した（表3-1）。流行のピークは第31週（定点当たり報告数：1.47）で、2021年に続いて夏期に流行が見られた（表3-2）。2013～2019年には主に11～12月の冬期に流行のピークが観察されており、流行のトレンドの変化が確認された（図2-3）。

4) ヘルパンギーナ

2022年の定点における年間報告数は2,455例と、2021年の128例から2,327例の大幅な増加が見られた（表3-1）。2021年では、北海道は全国と比べて報告数が著しく少なかった。一方、2022年では北海道における流行のピークであった第34週の定点当たり報告数が2.28と、同週の全国の0.79と比べて大きな流行が確認された（表3-2、図2-4）。

5) 咽頭結膜熱

2022年の定点における年間報告数は1,563例と、2021

表3-1 定点把握疾患（週報：インフルエンザ・小児科・眼科・基幹） 報告数

定点名	疾患名	2019年	2020年	2021年	2022年
インフルエンザ定点	インフルエンザ	91,523	27,014	61	1,289
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23,777	10,551	6,633	3,624
	RSウイルス感染症	7,233	934	10,197	5,040
	ヘルパンギーナ	3,273	289	128	2,455
	咽頭結膜熱	3,210	2,042	2,186	1,563
	感染性胃腸炎	18,198	6,506	9,825	11,268
	手足口病	16,603	240	331	7,853
	水痘	2,470	1,345	1,018	675
	伝染性紅斑	4,485	1,451	54	43
	突発性発しん	1,735	1,838	1,497	1,041
	流行性耳下腺炎	350	202	187	146
	急性出血性結膜炎	7	9	2	9
眼科定点	流行性角結膜炎	682	473	138	124
基幹定点	クラミジア肺炎	4	1	0	1
	マイコプラズマ肺炎	738	223	40	32
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	340	29	6	14
	細菌性髄膜炎	8	8	4	10
	無菌性髄膜炎	15	11	1	2
合 計		174,651	53,166	32,308	35,189

表 3-2 定点把握疾患（週報：インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点）

定点当たり週別報告数（2022 年）

報告週	インフルエンザ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	RSウイルス感染症	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	水痘	伝染性紅斑	突発性発しん	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	クラミジア肺炎	マイコプラズマ肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎
1 週	0.00	0.57	0.47	0.01	0.43	1.09	0.11	0.19	0.00	0.20	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00
2 週	0.00	0.56	0.52	0.05	0.29	1.46	0.08	0.21	0.01	0.18	0.03	0.04	0.14	0.00	0.04	0.13	0.00	0.00
3 週	0.00	0.78	0.89	0.01	0.27	1.76	0.06	0.16	0.02	0.22	0.01	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00
4 週	0.01	0.74	0.81	0.00	0.19	1.66	0.04	0.09	0.01	0.16	0.03	0.04	0.00	0.04	0.00	0.04	0.00	0.00
5 週	0.16	0.68	0.72	0.03	0.18	1.30	0.01	0.08	0.01	0.17	0.04	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
6 週	0.00	0.53	0.46	0.00	0.09	1.01	0.04	0.04	0.00	0.11	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
7 週	0.00	0.45	0.40	0.01	0.16	1.04	0.01	0.10	0.00	0.09	0.02	0.00	0.21	0.00	0.09	0.00	0.00	0.00
8 週	0.01	0.37	0.32	0.01	0.11	0.76	0.03	0.07	0.00	0.12	0.04	0.04	0.04	0.00	0.00	0.04	0.04	0.00
9 週	0.00	0.43	0.29	0.00	0.14	0.82	0.01	0.11	0.01	0.15	0.01	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
10 週	0.00	0.50	0.32	0.00	0.09	0.99	0.01	0.13	0.00	0.16	0.01	0.00	0.18	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00
11 週	0.00	0.50	0.35	0.01	0.13	0.83	0.01	0.06	0.00	0.10	0.01	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
12 週	0.01	0.34	0.36	0.00	0.06	0.95	0.04	0.07	0.00	0.14	0.02	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
13 週	0.01	0.32	0.39	0.00	0.12	0.87	0.00	0.03	0.01	0.12	0.01	0.00	0.07	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
14 週	0.00	0.40	0.22	0.01	0.13	1.36	0.01	0.12	0.00	0.17	0.01	0.04	0.11	0.00	0.04	0.00	0.04	0.00
15 週	0.00	0.46	0.17	0.00	0.09	1.76	0.01	0.07	0.00	0.14	0.01	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
16 週	0.00	0.49	0.25	0.00	0.16	2.21	0.01	0.07	0.00	0.11	0.01	0.00	0.07	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
17 週	0.00	0.34	0.22	0.00	0.14	2.28	0.01	0.05	0.01	0.17	0.01	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
18 週	0.00	0.31	0.13	0.00	0.12	1.62	0.00	0.05	0.01	0.12	0.01	0.00	0.07	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
19 週	0.00	0.44	0.27	0.00	0.22	2.90	0.01	0.06	0.01	0.22	0.01	0.00	0.04	0.00	0.09	0.00	0.00	0.00
20 週	0.00	0.51	0.35	0.01	0.28	4.03	0.01	0.08	0.00	0.20	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
21 週	0.00	0.46	0.22	0.00	0.36	3.91	0.01	0.07	0.00	0.17	0.01	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
22 週	0.00	0.38	0.19	0.00	0.27	3.84	0.04	0.07	0.00	0.17	0.02	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
23 週	0.00	0.49	0.34	0.01	0.56	4.29	0.03	0.10	0.00	0.18	0.02	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
24 週	0.00	0.64	0.44	0.01	0.46	3.68	0.10	0.15	0.02	0.17	0.01	0.00	0.04	0.00	0.13	0.00	0.00	0.00
25 週	0.00	0.81	0.57	0.06	0.54	3.86	0.24	0.09	0.01	0.21	0.04	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
26 週	0.00	0.60	0.71	0.12	0.63	2.73	0.50	0.04	0.00	0.12	0.01	0.00	0.04	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
27 週	0.00	0.79	1.12	0.14	0.55	2.67	0.67	0.06	0.01	0.23	0.03	0.00	0.18	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
28 週	0.00	0.74	1.35	0.42	0.53	2.54	1.72	0.09	0.00	0.33	0.01	0.00	0.11	0.00	0.09	0.00	0.00	0.00
29 週	0.00	0.48	1.50	0.64	0.31	1.49	1.98	0.08	0.01	0.21	0.01	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.04	0.04
30 週	0.00	0.63	1.46	0.94	0.29	1.34	3.54	0.07	0.00	0.17	0.01	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
31 週	0.00	0.46	1.47	1.51	0.21	0.82	5.02	0.04	0.03	0.22	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
32 週	0.00	0.26	0.95	1.70	0.14	0.73	5.33	0.07	0.01	0.14	0.01	0.00	0.07	0.00	0.05	0.00	0.00	0.00
33 週	0.01	0.49	1.04	1.73	0.08	0.65	7.05	0.04	0.01	0.09	0.04	0.00	0.17	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00
34 週	0.00	0.30	0.89	2.28	0.08	0.65	7.15	0.03	0.01	0.14	0.03	0.00	0.14	0.00	0.09	0.00	0.04	0.00
35 週	0.04	0.54	0.91	2.12	0.09	0.91	6.34	0.04	0.00	0.14	0.01	0.00	0.28	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00
36 週	0.03	0.50	0.98	1.66	0.06	0.67	5.57	0.08	0.01	0.11	0.01	0.00	0.03	0.00	0.00	0.04	0.04	0.00
37 週	0.01	0.34	0.89	1.45	0.08	0.77	3.69	0.15	0.01	0.10	0.04	0.00	0.14	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
38 週	0.00	0.38	0.72	0.61	0.07	0.53	1.91	0.07	0.01	0.13	0.04	0.07	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
39 週	0.00	0.47	0.66	0.45	0.04	0.62	1.21	0.10	0.05	0.14	0.02	0.03	0.17	0.00	0.00	0.09	0.04	0.00
40 週	0.00	0.42	1.08	0.28	0.06	0.69	0.94	0.07	0.00	0.10	0.02	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00
41 週	0.00	0.33	1.03	0.32	0.09	0.93	0.75	0.08	0.00	0.15	0.05	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
42 週	0.02	0.55	1.06	0.19	0.09	0.70	0.38	0.08	0.00	0.10	0.01	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
43 週	0.01	0.60	1.30	0.21	0.09	0.76	0.46	0.09	0.00	0.11	0.01	0.00	0.14	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
44 週	0.00	0.47	1.20	0.08	0.08	0.84	0.30	0.11	0.00	0.05	0.03	0.00	0.07	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
45 週	0.01	0.43	0.89	0.07	0.09	0.60	0.21	0.12	0.00	0.12	0.02	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04
46 週	0.01	0.60	0.83	0.04	0.12	1.06	0.14	0.14	0.00	0.08	0.01	0.00	0.21	0.00	0.13	0.00	0.00	0.00
47 週	0.03	0.35	0.78	0.03	0.12	0.71	0.06	0.19	0.01	0.12	0.01	0.00	0.17	0.00	0.00	0.09	0.00	0.00
48 週	0.02	0.45	0.53	0.06	0.31	1.04	0.07	0.16	0.00	0.10	0.04	0.00	0.07	0.00	0.09	0.04	0.00	0.00
49 週	0.11	0.50	0.90	0.05	0.28	1.30	0.06	0.14	0.00	0.06	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
50 週	0.47	0.80	0.94	0.09	0.37	1.71	0.06	0.11	0.01	0.12	0.06	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
51 週	1.76	0.57	0.69	0.06	0.46	1.69	0.11	0.18	0.00	0.10	0.01	0.00	0.14	0.00	0.09	0.00	0.00	0.00
52 週	2.88	0.48	0.60	0.03	0.31	1.63	0.01	0.10	0.00	0.07	0.01	0.00	0.10	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00
平均	0.11	0.50	0.70	0.34	0.22	1.56	1.08	0.09	0.01	0.14	0.02	0.01	0.08	0.00	0.03	0.01	0.01	0.00

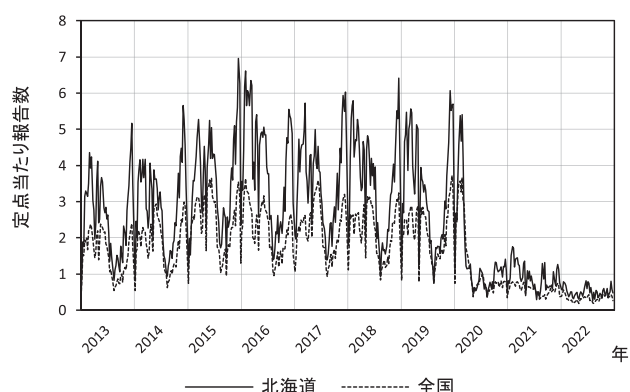
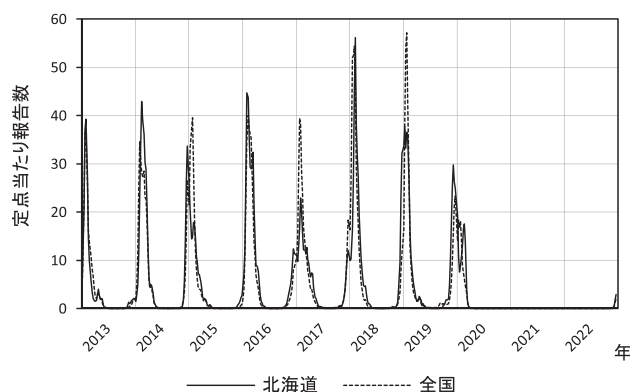
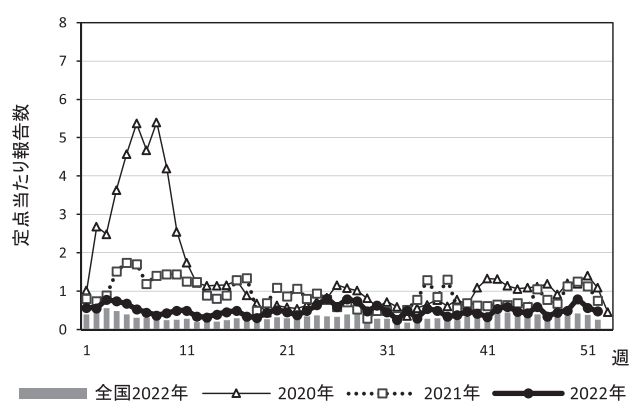
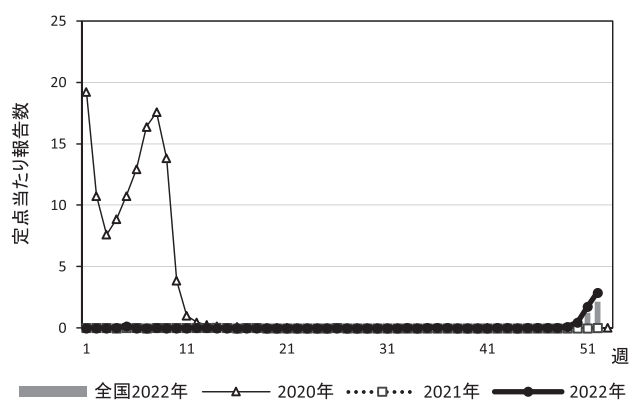


図 2-1 インフルエンザ定点当たり報告数

図 2-2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎定点当たり報告数

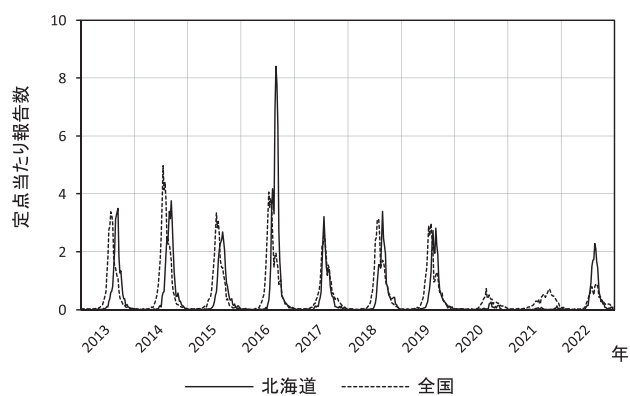
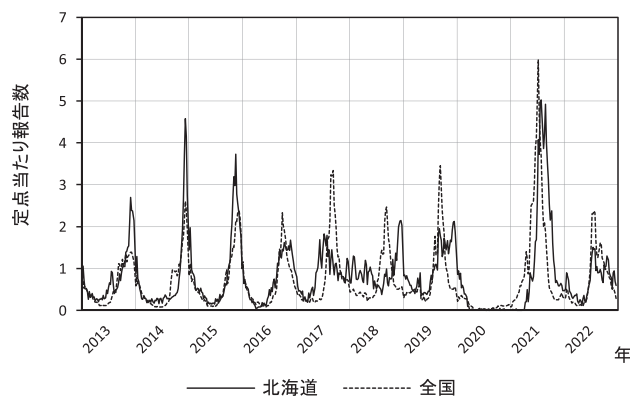
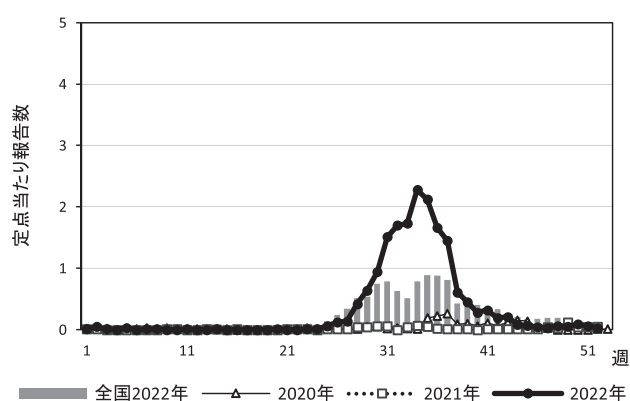
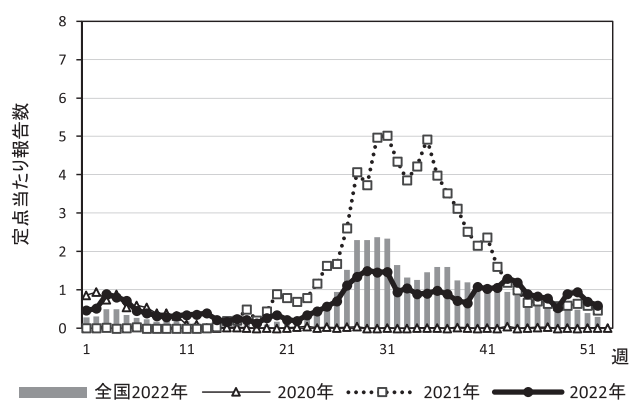


図 2-3 RS ウイルス感染症定点当たり報告数

図 2-4 ヘルパンギーナ定点当たり報告数

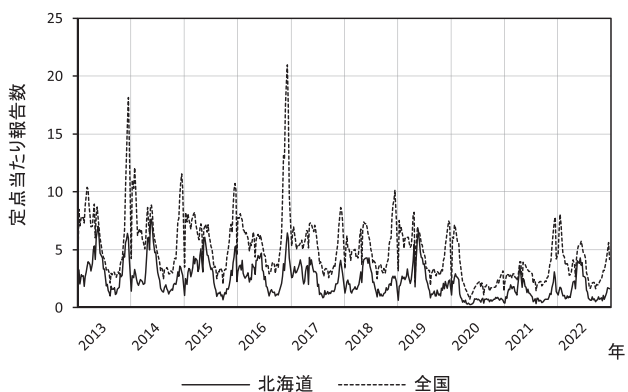
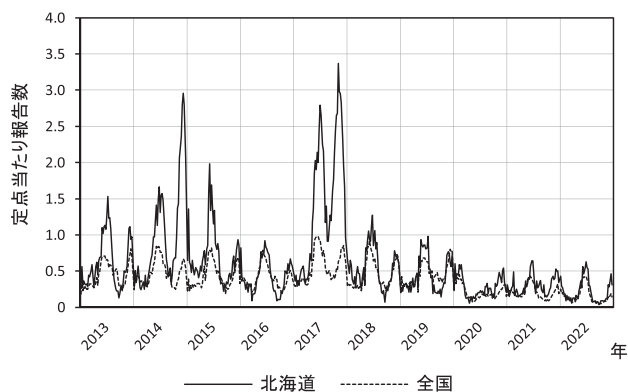
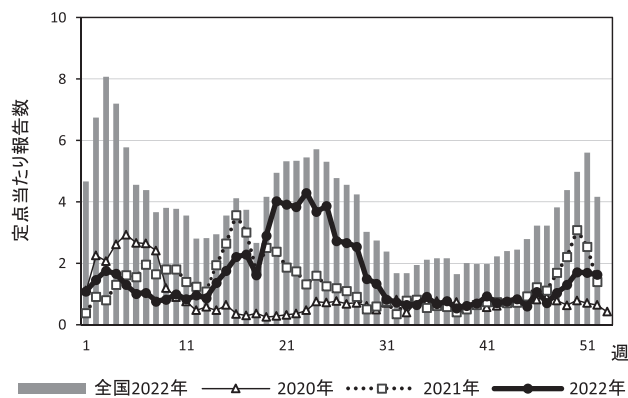
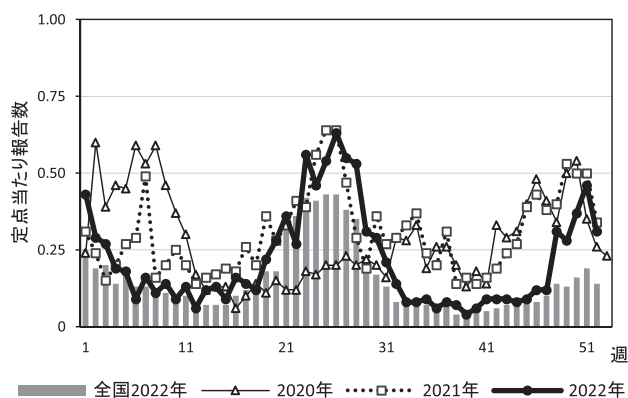


図 2-5 咽頭結膜熱定点当たり報告数

図 2-6 感染性胃腸炎定点当たり報告数

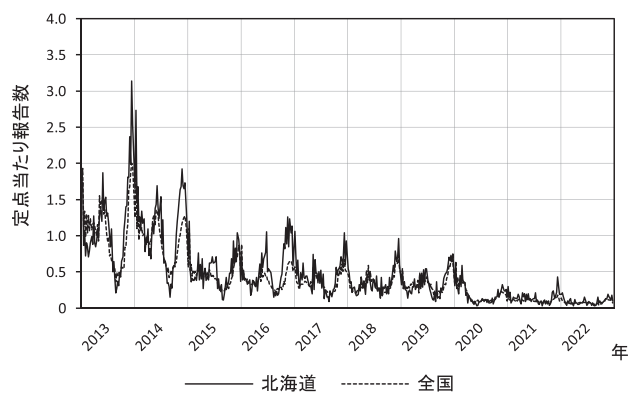
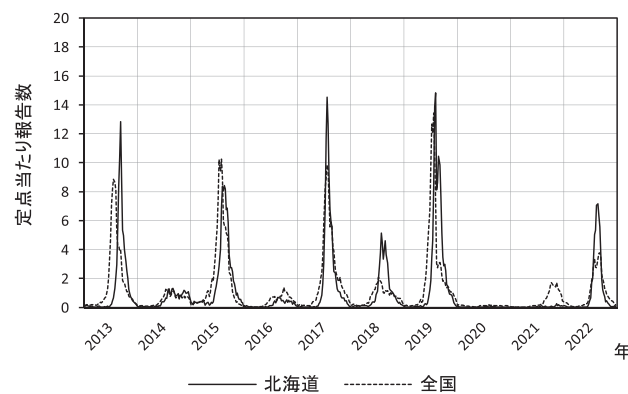
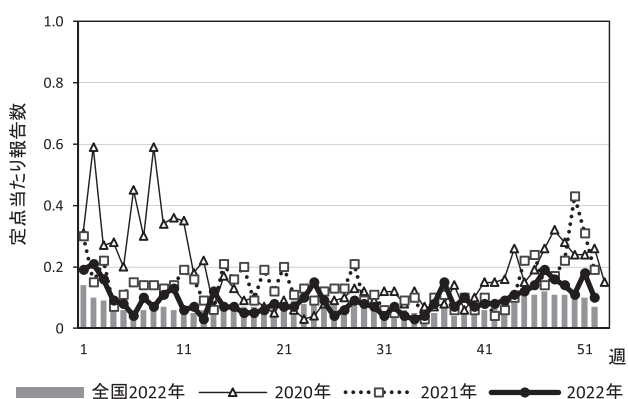
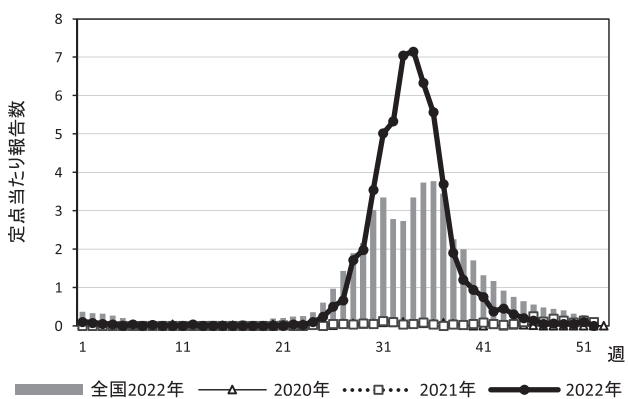


図 2-7 手足口病定点当たり報告数

図 2-8 水痘定点当たり報告数

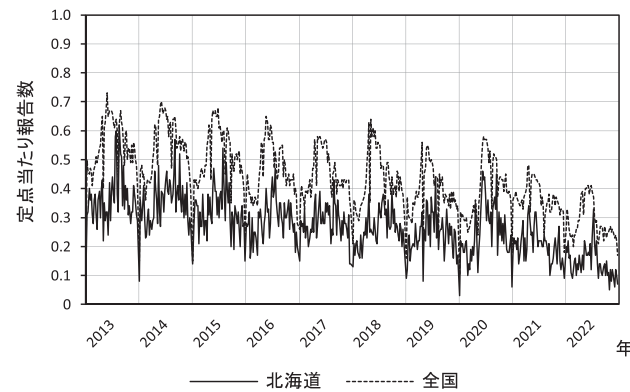
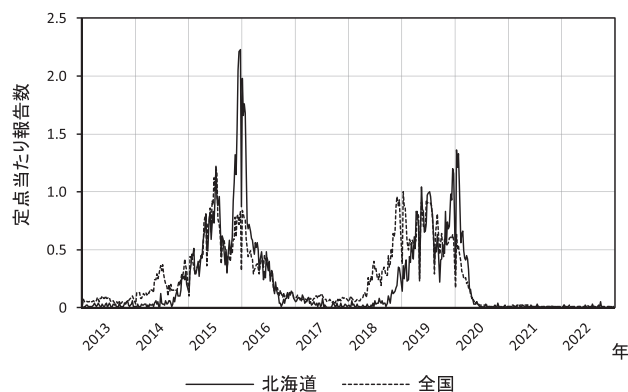
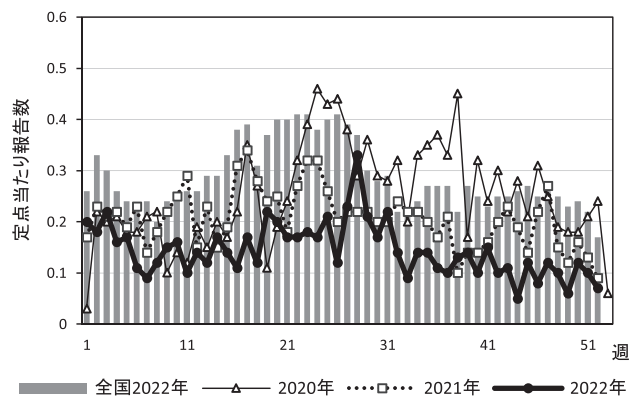
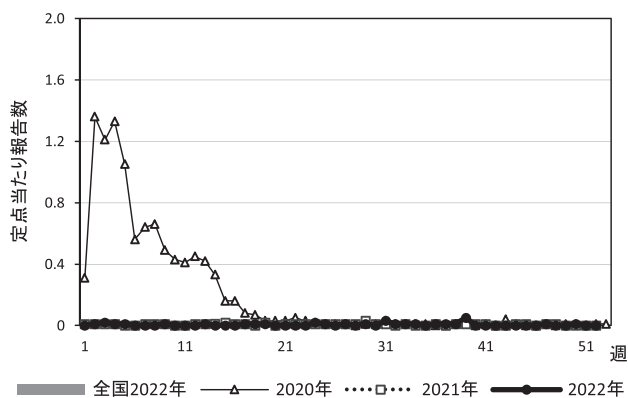


図 2-9 伝染性紅斑定ポイント当たり報告数

図 2-10 突発性発しん定ポイント当たり報告数

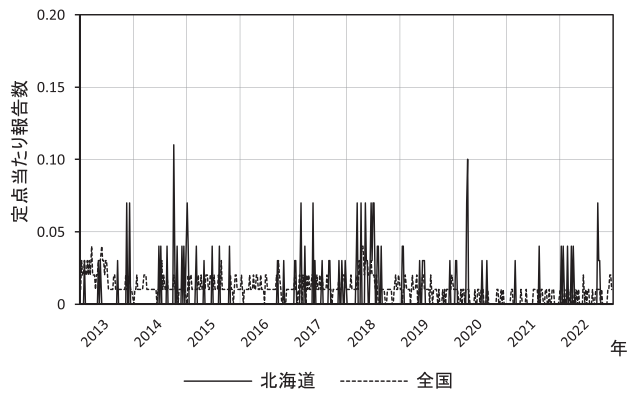
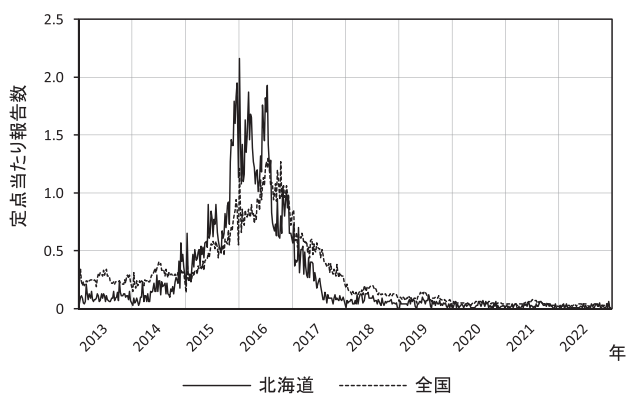
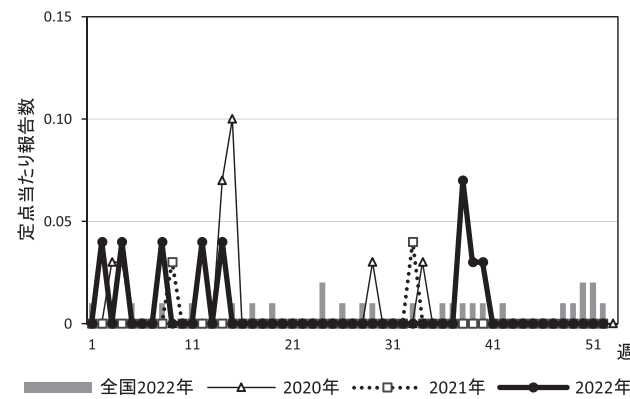
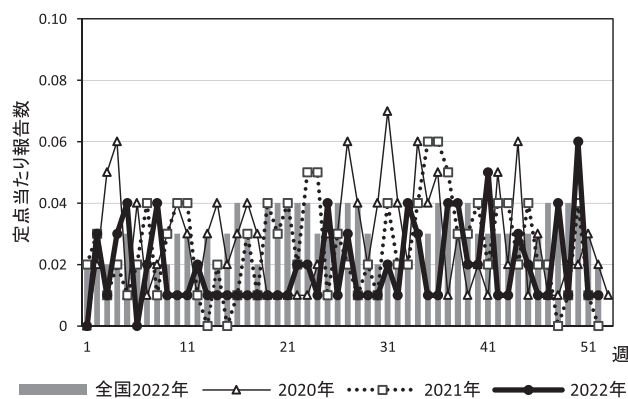


図 2-11 流行性耳下腺炎定ポイント当たり報告数

図 2-12 急性出血性結膜炎定ポイント当たり報告数

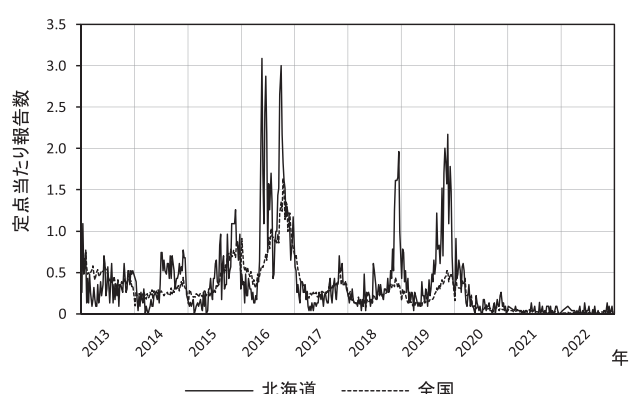
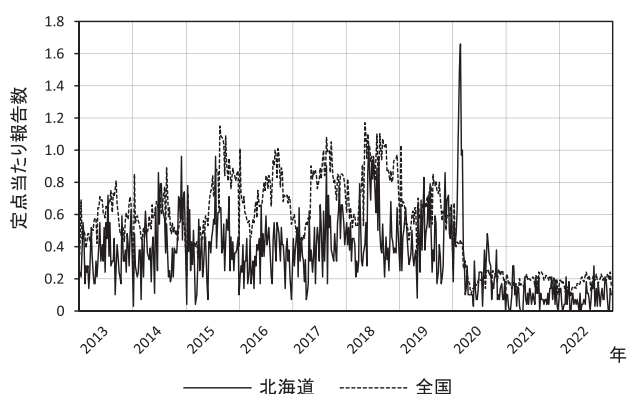
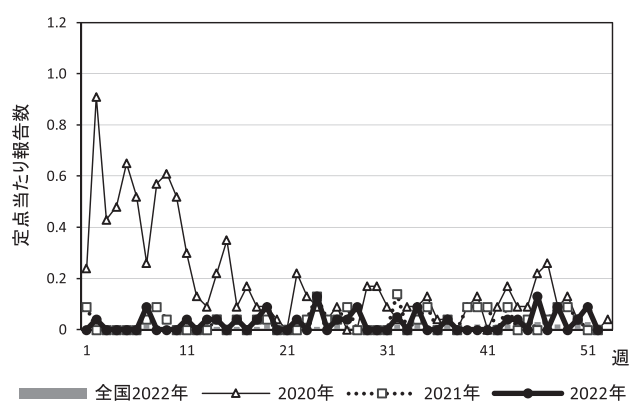
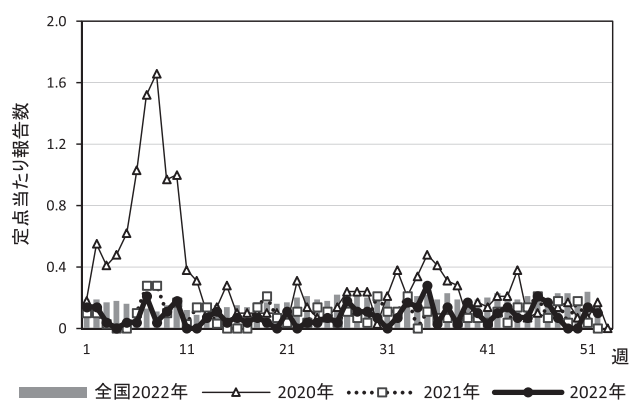


図 2-13 流行性角結膜炎定点当たり報告数

図 2-14 マイコプラズマ肺炎定点当たり報告数

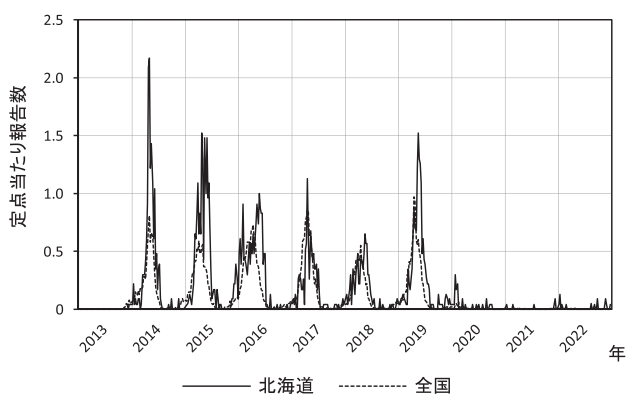
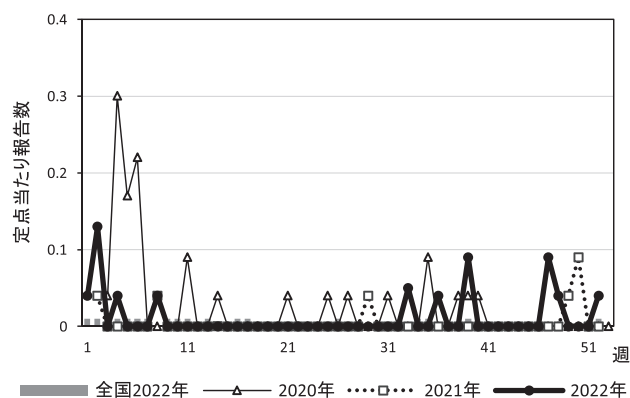


図 2-15 感染性胃腸炎（ロタ）* 定点当たり報告数

*：2013 年 10 月 14 日から五類（定点把握対象）に追加指定

年の2,186例から623例減少した（表3-1）。北海道では2017年に全国の中でも大きな流行（年間報告数：10,469）を示した後、2019年（3,210）、2020年（2,042）、2021年（2,186）、2022年（1,563）と年間報告数は減少傾向を示した。2022年は7月（第26週定点当たり報告数：0.63）及び12月（第51週定点当たり報告数：0.46）に二峰性のピークが観察された（表3-2、図2-5）。

6) 感染性胃腸炎

2022年の定点における年間報告数は11,268例と、2021年の9,825例から1,443例増加した（表3-1）。2022年に全国では5～6月及び12～1月の二峰性のピークを示した。一方、北海道では5～6月のピーク（第23週定点当たり報告数：4.29）は明瞭だったものの、12～1月のピークは全国と比べて小さかった（表3-2、図2-6）。2013～2022年において、北海道の定点当たり報告数は全国と比較し小さい傾向が認められた。

7) 手足口病

2022年の定点における年間報告数は7,853例と、2021年の331例から7,522例の大幅な増加が見られた（表3-1）。手足口病は2013～2019年まで2年周期で大きな流行が認められた（図2-7）。

8) 水痘

2022年の定点における年間報告数は675例と、2021年の1,018例から343例減少した（表3-1）。水痘は2014年10月1日から生後12～36カ月の小児を対象としたワクチンの定期接種が始まった¹³⁾。2015～2019年の定点当たり報告数は冬期にピークを示したものの、ピークの大きさは縮小を続け、2020年以降は低い水準で推移した（図2-8）。

9) 伝染性紅斑

2022年の定点における年間報告数は43例と、2021年の54例に続いて低い水準で推移した（表3-1）。

10) 突発性発しん

2022年の定点における年間報告数は1,041例と、2021年の1,497例から456例減少した（表3-1）。突発性発しんは2歳未満の乳幼児が報告の大部分を占めており、季節性や年次による差異をほとんど示さないことが特徴として知られている¹⁴⁾。しかし、北海道及び全国ともに、2021年から年間報告数が2年連続で減少傾向を示した（表3-1、図2-10）。

11) 流行性耳下腺炎

2022年の定点における年間報告数は146例であった（表3-1）。

12) 急性出血性結膜炎

2022年の定点における年間報告数は9例と、2021年の2例に続いて低い水準で推移した（表3-1）。2013～2022年に特徴的な季節性は見られなかった（図2-12）。

13) 流行性角結膜炎

2022年の定点における年間報告数は124例と、2021年の138例から14例減少した（表3-1）。北海道では2020年第8週に定点当たり報告数1.66を記録して以来、2022

年まで定点当たり報告数は低い水準で推移した（図2-13）。

14) クラミジア肺炎

2022年の定点における年間報告数は1例と、2021年の0例に続いて低い水準で推移した（表3-1）。

15) マイコプラズマ肺炎

2022年の定点における年間報告数は32例と、2021年の40例に続いて低い水準で推移した（表3-1、図2-14）。

16) 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2022年の定点における年間報告数は14例と、2021年の6例に続いて低い水準で推移した（表3-1）。

17) 細菌性髄膜炎

2022年の定点における年間報告数は10例と、2021年の4例から6例増加した（表3-1）。

18) 無菌性髄膜炎

2022年の定点における年間報告数は2例と、2021年の1例に続いて低い水準で推移した（表3-1）。

3. 定点把握疾患（月報）

定点把握疾患（月報）の報告状況について、表4-1～表4-5に示した。

1) 基幹定点

2022年では、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は13例、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は433例、薬剤耐性緑膿菌感染症は3例の報告があった（表4-1）。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告に季節性は認められなかった（表4-2）。

2) 性感染症定点

性感染症定点対象の4疾患の年間報告数は2019年からほぼ横ばいの傾向を示した（表4-3）。

性器クラミジア感染症の2022年の定点における年間報告数は2,115例で、月ごとの報告数にはほぼ変動がなかった（表4-3、4-4）。女性の報告が男性の2.0倍と、女性の報告が多かった（表4-5）。年齢は20代の若い世代に集中しており、全体の61%を占めた。

性器ヘルペスウイルス感染症の2022年の定点における年間報告数は544例で、月ごとの報告数にはほぼ変動がなかった（表4-3、4-4）。女性の報告が男性の3.2倍と、女性の報告が多かった（表4-5）。年齢は20～59歳の報告が多かった。

尖圭コンジローマの2022年の定点における年間報告数は221例で、月ごとの報告数にはほぼ変動がなかった（表4-3、4-4）。男性の報告が女性の2.6倍と、男性の報告が多かった。年齢は20～59歳の報告が多かった。

2022年の淋菌感染症の定点における年間報告数は604例で、月ごとの報告数にはほぼ変動がなかった（表4-3、4-4）。

以上、北海道における2022年の感染症発生動向について報告した。各保健所管内の詳細なデータについては、当所ホームページ⁷⁾を参照されたい。

本報告を終えるにあたり、感染症発生動向調査にご協力頂いている医療機関ならびに関係機関各位に深謝いたします。

表 4-1 定点把握疾患（月報：基幹定点） 報告数

定点名	疾患名	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
基幹定点	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	19	1	32	13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	623	477	429	433
	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	7	3	3

表 4-2 定点把握疾患（月報：基幹定点） 月別報告数（2022 年）

疾患名	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
報告数	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			1	1	2		2	3	1	2	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	23	30	39	26	36	41	26	34	44	44	45
	薬剤耐性緑膿菌感染症						1	1	1			
定点 当たり	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			0.04	0.04	0.09		0.09	0.13	0.04	0.09	0.05
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.00	1.30	1.70	1.13	1.57	1.78	1.13	1.48	1.91	1.91	1.96
	薬剤耐性緑膿菌感染症						0.04	0.04	0.04			2.05

表 4-3 定点把握疾患（月報：性感染症定点） 報告数

定点名	疾患名	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
性感染症定点	性器クラミジア感染症	2,045	1,993	2,048	2,115
	性器ヘルペスウイルス感染症	619	498	487	544
	尖圭コンジローマ	271	208	203	221
	淋菌感染症	527	507	607	604

表 4-4 定点把握疾患（月報：性感染症定点） 月別報告数（2022 年）

疾患名	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
報告数	性器クラミジア感染症	161	142	170	131	164	189	176	191	193	230	174
	性器ヘルペスウイルス感染症	42	37	52	41	34	46	55	41	45	42	54
	尖圭コンジローマ	21	17	17	17	22	25	20	23	21	11	15
	淋菌感染症	43	42	52	44	47	48	57	55	41	63	61
定点 当たり	性器クラミジア感染症	3.83	3.38	4.05	3.12	3.90	4.50	4.19	4.55	4.60	5.48	4.62
	性器ヘルペスウイルス感染症	1.00	0.88	1.24	0.98	0.81	1.10	1.31	0.98	1.07	1.00	1.31
	尖圭コンジローマ	0.50	0.40	0.40	0.40	0.52	0.60	0.48	0.55	0.50	0.26	0.36
	淋菌感染症	1.02	1.00	1.24	1.05	1.12	1.14	1.36	1.31	0.98	1.50	1.21

表 4-5 定点把握疾患（月報：性感染症） 年齢階級別（2022 年）

年齢階級	性器クラミジア 感染症			性器ヘルペス ウイルス感染症			尖圭コンジローマ			淋菌感染症		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0 歳										1		1
1～9 歳					1	1						
10～19 歳	51	169	220	1	17	18	3	7	10	23	35	58
20～29 歳	367	915	1,282	29	94	123	38	32	70	176	144	320
30～39 歳	145	246	391	25	97	122	38	7	45	73	28	101
40～49 歳	93	73	166	37	67	104	36	13	49	58	25	83
50～59 歳	33	16	49	20	73	93	22	3	25	25	11	36
60～69 歳	6		6	9	39	48	12		12	4		4
70 歳以上	1		1	10	25	35	10		10	1		1
合 計	696	1,419	2,115	131	413	544	159	62	221	361	243	604
男女比	1.00	2.04		1.00	3.15		1.00	0.39		1.00	0.67	

文 献

- 1) 厚生労働省ホームページ：感染症法に基づく医師の届出のお願い，感染症発生動向調査事業実施要綱，https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/kekaku-kansenshou11/01.html（確認：2023年5月26日）
- 2) 厚生労働省健康局長通知健発 0203 第 2 号「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準等について（一部改正）」，令和 2 年 2 月 3 日
- 3) 厚生労働省健康局長通知健発 0203 第 2 号「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の改正について（新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律関係）」，令和 3 年 2 月 3 日
- 4) 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務連絡「With コロナの新たな段階への移行に向けた全数届出の見直しについて」，令和 4 年 9 月 12 日
- 5) 厚生労働省健康局長通知健発 0502 第 1 号「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準等について（一部改正）」，令和 5 年 5 月 2 日
- 6) 中野道晴，市橋大山，長野秀樹，扇谷陽子，宮田 淳，岡野素彦：地方感染症情報センターにおける患者情報集計，解析業務を支援する情報ツール，北海道公衆衛生学雑誌，**28**(2)，147-150（2014）
- 7) 北海道立衛生研究所ホームページ：北海道感染症情報センター，<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>（確認：2023年5月26日）
- 8) 国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ：E 型肝炎とは，<https://www.niid.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/319-hepatitis-e-intro.html>（確認：2023年5月26日）
- 9) 厚生労働省ホームページ：B 型肝炎，<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555.html>（確認：2023年5月26日）
- 10) 国立感染症研究所感染症疫学センター：Hib ワクチン定期接種化に至るまでの経緯と小児ワクチン接種の現状，病原微生物検出情報，**34**(7)，199-201（2013）
- 11) 厚生労働省健康局長通知健発 0330 第 1 号「予防接種法の一部を改正する法律の施行等について」，平成 25 年 3 月 30 日
- 12) 厚生労働省健康局長通知健発 0716 第 24 号「予防接種法施行令の一部を改正する政令ならびに予防接種法施行規則及び予防接種実施規則の一部を改正する省令の施行について」，平成 26 年 7 月 16 日
- 13) 厚生労働省健康局長通知健発 0716 第 24 号「予防接種法施行令の一部を改正する政令ならびに予防接種法施行規則及び予防接種実施規則の一部を改正する省令の施行について」，平成 26 年 7 月 16 日
- 14) 国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ：突発性発疹とは，<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/532-exanthem-subitum.html>（確認：2023年5月26日）